

【2】「グリセリン浣腸実施に伴う直腸穿孔」（医療安全情報 No. 3）について

（1）発生状況

医療安全情報 No. 3（平成19 年2 月提供）では、「グリセリン浣腸実施に伴う直腸穿孔」を取り上げた（医療安全情報掲載件数7 件 集計期間：平成16 年10 月～平成18 年9 月）。更に第19 回報告書においても、分析対象期間内に類似事例が報告されたことを受け、再発・類似事例の発生状況（第19 回報告書182-184 頁、平成21 年年報344-346 頁）で取りまとめた。

これまでの、「グリセリン浣腸実施に伴う直腸穿孔」の事例件数とその推移を図表Ⅲ-3-2 に示す。本報告書分析対象期間（平成24 年7 月～9 月）に報告された「グリセリン浣腸実施に伴う直腸穿孔」の医療事故は1 件であった。

図表Ⅲ-3-2 「グリセリン浣腸実施に伴う直腸穿孔」の報告件数

	1～3月 (件)	4～6月 (件)	7～9月 (件)	10～12月 (件)	合計 (件)
平成16 年				2	2
平成17 年	0	2	0	0	2
平成18 年	1	1	1	0	3
平成19 年	0	1	1	0	2
平成20 年	0	0	0	0	0
平成21 年	0	0	2	0	2
平成22 年	2	2	1	0	5
平成23 年	0	0	0	0	0
平成24 年	1	0	1	—	2

図表Ⅲ-3-3 医療安全情報 No. 3 「グリセリン浣腸実施に伴う直腸穿孔」

医療事故情報収集等事業 医療安全情報 No.3 2007年2月

財団法人 日本医療機能評価機構

医療安全情報
No.3 2007年2月

「グリセリン浣腸実施に伴う直腸穿孔」

グリセリン浣腸に伴い直腸穿孔などをきたした事例が7件報告されています（集計期間：2004年10月1日～2006年9月30日、第3回、第5回および第7回報告書「共有すべき医療事故情報」に掲載）。

報告事例7件のうち、
立位前屈で実施した事例が6件あります。

グリセリン浣腸施行時の体位・場所

体 位	立位前屈	左側臥位
場 所	トイレ	病室
件 数	6件	1件

医療事故情報収集等事業 医療安全情報 No.3 2007年2月

「グリセリン浣腸実施に伴う直腸穿孔」

事例 1

トイレにおいて、立位でグリセリン浣腸を施行した。その後、患者は軽度の腹痛と肛門周囲からの出血があったため、内視鏡検査を実施した結果、直腸の裂傷や穿孔とその周辺に凝血塊を認めた。また、損傷部位から血中に混入したグリセリンに起因すると考えられる溶血および腎機能の低下を認めた。

事例 2

胃癌手術の前処置のグリセリン浣腸を実施する際に、トイレにおいて前屈で施行した。その後、患者は腹から透明液の排出と、排尿時に極少量の出血に気付いた。予定通り手術を開始し、腹腔内検索を行ったところ、直腸に穿孔を確認したことから人工肛門を造設した。

事例が発生した医療機関の取り組み
浣腸の実施は、左側臥位を基本とし慎重に行う。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、当事業の一環として、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
<http://jqa.or.jp/html/accident.htm#med-saf>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたって保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量で参照したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

J C 財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止センター
H C 医療事故防止事業部

〒101-0062 東京都千代田区神田錦町3-11 三井住友海上豊洲台別館ビル7階
電話 03-5217-0252(直通) FAX 03-5217-0253(直通)
<http://jqa.or.jp/html/index.htm>

(2) 事例概要

本報告書分析対象期間に報告された事例概要を以下に示す。

事例

【内容】

排便が 2 日間無かったため、患者の希望で予定指示の浣腸（ケンエー G 浣腸液 50% 60mL）を実施した。患者に左下側臥位となるよう言ったが、希望にて右下側臥位にて実施（患者が自分で向きやすかった）。レクタルチューブにグリセリンを塗布し、先端から 10cm の位置にストッパーを固定した。ストッパーの部分を持ち、肛門から真っ直ぐ挿入した。挿入時の抵抗などは無くスムーズに入った。浣腸液を注入しチューブを抜去した際に、チューブには血液の付着は認めなかった。

反応便は無く便意のみ。浣腸液流出と共に下血（鮮血）があったため、主治医の診察を受けた。直腸診にて、直腸内には腫瘍は無く、肛門の 0 時の位置に柔らかい内痔核があることを確認した。主治医は浣腸後の出血はチューブ先端でこすれて直腸粘膜から出血したものと考え、穿通しているとは考えていなかった。

その後、泥状便 2 回あったが出血は無く、腹痛、発熱はみられなかった。

5 日後、退院前検査として、下血の精査（悪性腫瘍等の可能性）も含め、腹部 CT を行ったところ、直腸の穿通（疑）が発見された。（読影：直腸壁は肥厚。直腸腫瘍の否定が必要。直腸周囲脂肪組織は混濁しており、直腸の右側壁外に air を認める。直腸壁の破れあるいは穿通を疑い、広義の後腹膜に炎症が波及している可能性あり。）

【背景・要因】

- ・ もともと、腸管の疾患の既往はなく下血や排便時の出血等は記録されていない。以前に 5 回の浣腸を行っているが出血は認めなかった。
- ・ 施行時には痛みの訴えは無かったが、出血を確認した看護師が腹痛の有無を問うと、「痛かった」と答えた。
- ・ 院内看護手順では、患者の体位は「左側臥位とするが、無理な場合は右側臥位、仰臥位でも良い。」とされていた。
- ・ 挿入の角度、深さは手順通りに実施された。
- ・ 患者の年齢を考慮すると、腸管粘膜が弱かった可能性がある。
- ・ 浣腸の挿入角度、長さを手順通りに実施したつもりでも、腸管の位置のずれや、手元の角度のずれにより、直腸壁に当たる可能性があった。
- ・ 手技上に問題はなかったが、何らかの理由により浣腸チューブの先端が直腸壁に当たり、傷つけた。
- ・ 直腸損傷発見までに 5 日間を要しているが、主治医が、浣腸後の出血の報告を受けた時点で穿通を発見するには、直腸鏡・大腸ファイバー検査等を行う必要がある。CT でも、当事例では、穿通直後に撮像されるほどの所見は出なかったと考えられる。また、数日間、下血や腹痛、発熱は見られないことから発見は困難だった。

III

1
2-[1]
2-[2]
2-[3]
2-[4]
3-[1]
3-[2]
3-[3]
3-[4]

「グリセリン浣腸実施に伴う直腸穿孔」（医療安全情報 No. 3）について

（３）事例が発生した医療機関の改善策について

事例が発生した医療機関の改善策として、以下が報告されている。

- １．処置は原則手順通りを行うことを徹底する。
- ２．患者にも、手順の意図を説明し協力を得る。
- ３．何らかの理由で、手順に沿った実施が出来ない場合、患者の状況や、解剖生理学的な考慮と共に手技を決定し、注意深く実施する。
- ４．浣腸に伴う危険性について、患者に対しオリエンテーション等を行い、腹痛や出血などの症状に注意できるようにしておく。

（４）グリセリン浣腸実施に関する注意喚起等

グリセリン浣腸実施に関して、本事業で提供している医療安全情報の他、平成 18 年 2 月に日本看護協会から「立位による浣腸実施の事故報告」¹⁾、平成 18 年 6 月に神奈川県看護協会から「患者安全警報 No. 6 安全なグリセリン浣腸の実施について」²⁾が発出され、グリセリン浣腸実施時の体位について注意喚起がなされている。注意喚起の中で、「左側臥位は注入液を直腸から容易に流し、左腹部にある下行結腸に到達させるため大切」と述べられている。

<神奈川県看護協会 「安全なグリセリン浣腸の実施について」>一部抜粋

神奈川県看護協会 医療安全対策課
患者安全警報 No.6

< 安全なグリセリン浣腸の実施について >

グリセリン浣腸（以下、GE）に関連した医療事故（直腸穿孔）は、立位での実施により発生しており、日本看護協会の「緊急安全情報」（2006 年 3 月）では、立位での GE を実施しないよう各施設に注意を喚起しております。また、傷ついた粘膜などからのグリセリン吸収に伴う副作用（溶血、腎障害）などもあります。

つまり、GE 実施時の体位に注意を払うだけでなく、実施前・実施中・実施後に効果的に安全対策を実施する必要があります。

GE の実施については、看護部だけでなく診療部門等とも課題を共有し、対策を検討することが必要です。この調査項目及び結果を各施設で活用して頂き、GE のリスクアセスメントと医療事故防止対策の具体的な取り組みを検討することをお勧めします。

イラスト提供：
テイクメディックス株式会社

X線透視下で立位での直腸壁とチューブの角度を確認し作成しています

また、神奈川県看護協会の「患者安全警報No.6 安全なグリセリン浣腸の実施について」においては、グリセリン浣腸実施時のチューブの挿入についての注意喚起も行っているので、参考にさせていただきたい。

＜ 実施中のチェックポイント ＞

ポイント①！「チューブ挿入5-6cmまで、よし！！」

肛門管の長さは約3cmです。肛門から約6-7cm挿入すると直腸前壁（会陰曲）にぶつかります。7cm以上のチューブ挿入は危険です！！チューブ先端に抵抗を感じたら少し引き戻し、痛みや違和感を観察しながらチューブ挿入は適切な長さ（5～6cm）を挿入しましょう。

ポイント②！「GE液注入速度、よし！！」

GE液60mlの場合、約20秒が目安です。

ポイント③！「ナースコールの位置、よし！！」

GE実施中・後に気分不快や急な便意が発生し、手元にナースコールがないと対応が遅れたり、ベッドから患者さんが転倒転落する恐れがあります。

グリセリン浣腸実施に関する注意喚起ではないが、平成23年に実施された第100回看護師国家試験³⁾では、グリセリン浣腸実施時の適切な体位に関する問題が出題されており、その回答を左側臥位としているのであわせて参考にさせていただきたい。

＜第100回看護師国家試験 グリセリン浣腸実施時の体位に関する問題＞

20 成人患者に浣腸を行うときに、患者の体位で適切なのはどれか。

1. 坐 位
2. 仰臥位
3. 右側臥位
4. 左側臥位

回答：4. 左側臥位

（5）まとめ

平成19年2月に提供した医療安全情報では、事例が発生した医療機関の取り組みとして、浣腸の実施は、左側臥位を基本とし慎重に行うことを掲載した。

本報告書分析対象期間内において報告された事例は、成人患者に浣腸を行う際、適切な体位である左側臥位をとること、また挿入するチューブの長さにも注意が必要であることを再認識させられる報告であり、本稿の中でそれを紹介した。

今後も引き続き類似事例の発生について注意喚起するとともに、その推移に注目していく。

Ⅲ

- 1
- 2-〔1〕
- 2-〔2〕
- 2-〔3〕
- 2-〔4〕
- 3-〔1〕
- 3-〔2〕
- 3-〔3〕
- 3-〔4〕

「グリセリン浣腸実施に伴う直腸穿孔」（医療安全情報 No. 3）について

(6) 参考文献

1. 公益社団法人 神奈川県看護協会 . (online), available from <http://www.kana-kango.or.jp/img/anzenkeiho_6.pdf> (ast accessed 2012-10-01) .
2. 公益社団法人 日本看護協会 . (online), available from <<http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/pdf/200602.pdf>> (last accessed 2012-10-01) .
3. 厚生労働省. 第 9 4 回助産師国家試験、第 9 7 回保健師国家試験、第 1 0 0 回看護師国家試験の問題および解答について (午後問題). (online), available from <http://www.mhlw.go.jp/topics/2011/04/dl/tp_siken_100_kango_03.pdf> (last accessed 2012-10-01) .